

【「選ばれる京築の米づくり」の目標】

- ①種子更新100%
- ②田植時期の適正化
早植えは乳・心白粒、縞葉枯病の発生が多くなる
- ③生育に応じた適正な水管理
- ④病害虫防除の徹底
- ⑤乾燥調製後の適正玄米水分14~15%の確保

【土づくり】

- ①麦わら、稲わらは焼却せず、全量鋤込み
- ②土壌改良材を施用
ミネラルG(160kg/10a)
シリカサポート1号(40~60kg/10a)
- ③作土深15cm以上を確保
1~3年を目標に段階的に深く
- ④地力向上
牛ふん堆肥(2t/10a)

【各品種の平坦地における生育の目安】

品 種	田植時期	出穂期	成熟期	倒伏	いもち	穂発芽
夢 つ く し	6/5~15	8/9~12	9/12~17	やや強	弱	難
元 気 つ く し	6/10~	8/17~	9/23~	やや弱	弱	難
ヒノヒカリ	6/15~	8/25~	10/5~	やや弱	やや弱	難
ヒヨクモチ	6/20~	9/5~	10/26~	極強	やや弱	難

良質米生産のため平坦地では6月に入って田植をしましょう

月 別	6			7			8			9			10															
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下													
水管理	浅水たん水			中干し 強度な中干しは避ける			間断かん水			落水（落水の目安は収穫1週間前）																		
生 育	田植			分けつの確保			穂肥			出穂			成熟															
防 除 例	<p>○箱施薬（下表参照）</p> <p>○ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ） スクミノン 1~4kg</p> <p>○フタオビコヤガ・ウンカ類 MR・シヨーカー粉剤DL3kg</p> <p>※スクミノンは田植後、すぐに散布（収穫60日前まで）</p>			<p>縞葉枯病</p> <p>コラトップジャンボ 500g（10個）</p> <p>○いもち病</p> <p>○ウンカ類 アフロードロムモンカット粉剤DL3~4kg ○コブノメイガ</p>			<p>○穂いもち</p> <p>○紋枯病</p> <p>○ウンカ・カメムシ</p> <p>○カメムシ類・ウンカ類 キラップ粉剤DL 3~4kg</p>			<p>トビロウカ</p> <p>アフロードロムモンカット粉剤DL 3~4kg</p>			<p>液-粒剤体系</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>箱施薬</th> <th>7月下旬~8月中旬</th> <th>穂ぞろい期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>液剤</td> <td>デジタルパワー箱粒剤 (多発時のみ) アフロード水和剤 1000倍 MR・シヨーカーEW 2000倍 モンセレンフロアブル 1500倍</td> <td>ビームソル 1000倍 モンセレンフロアブル 1500倍 キラップフロアブル 2000倍</td> </tr> <tr> <td>粒剤</td> <td>1箱当たり50g</td> <td>キラップ粒剤 3kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ①液剤散布量：生育初期 80~100リットル 生育後期 120~150リットル ②粒剤体系は必ずデジタルパワー箱粒剤を施用する。 ③他の病害虫多発時には適時防除する。</p>			箱施薬	7月下旬~8月中旬	穂ぞろい期	液剤	デジタルパワー箱粒剤 (多発時のみ) アフロード水和剤 1000倍 MR・シヨーカーEW 2000倍 モンセレンフロアブル 1500倍	ビームソル 1000倍 モンセレンフロアブル 1500倍 キラップフロアブル 2000倍	粒剤	1箱当たり50g	キラップ粒剤 3kg				
	箱施薬	7月下旬~8月中旬	穂ぞろい期																									
液剤	デジタルパワー箱粒剤 (多発時のみ) アフロード水和剤 1000倍 MR・シヨーカーEW 2000倍 モンセレンフロアブル 1500倍	ビームソル 1000倍 モンセレンフロアブル 1500倍 キラップフロアブル 2000倍																										
粒剤	1箱当たり50g	キラップ粒剤 3kg																										
水管理	浅水たん水			中干し 強度な中干しは避ける			間断かん水			落水（落水の目安は収穫1週間前）																		
生 育	田植			分けつの確保			元気つくし ヒノヒカリ			穂肥			出穂															
防 除 例	<p>○箱施薬（下表参照）</p> <p>○ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ） スクミノン 1~4kg</p> <p>○フタオビコヤガ・ウンカ類 MR・シヨーカー粉剤DL3kg</p> <p>※スクミノンは田植後、すぐに散布（収穫60日前まで）</p>			<p>穂肥時期のめやす</p> <p>コラトップジャンボ 500g（10個）</p> <p>○いもち病</p> <p>○ウンカ類 アフロードロムモンカット粉剤DL3~4kg ○コブノメイガ</p>			<p>○稲こじ病・紋枯病</p> <p>モンガリット粒剤 3~4kg</p>			<p>○穂いもち</p> <p>○紋枯病</p> <p>○ウンカ・カメムシ</p> <p>○カメムシ類・ウンカ類 キラップ粉剤DL 3~4kg</p>			<p>アフロードロムモンカット粉剤DL 3~4kg</p>			<p>斑点米</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>等級</th> <th>1等</th> <th>2等</th> <th>3等</th> <th>規格外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>玄米1,000粒中の斑点米粒数</td> <td>1粒以下</td> <td>2~3粒</td> <td>4~7粒</td> <td>8粒以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>斑点米の粒数と玄米の等級の関係</p> <p>ミナミアカメシ成虫 ホソハリカメムシ カメムシによる斑点米</p> <p>※カメムシを出穂期以降に降着場で見かけたら直ちに防除する</p>			等級	1等	2等	3等	規格外	玄米1,000粒中の斑点米粒数	1粒以下	2~3粒	4~7粒	8粒以上
	等級	1等	2等	3等	規格外																							
玄米1,000粒中の斑点米粒数	1粒以下	2~3粒	4~7粒	8粒以上																								

縞葉枯病対策として、稲刈り後はすぐに鋤込みましょう！

箱施薬の種類と選び方 箱施薬の効果を最大限に活かす為に、1箱当たり50gをムラなく確実に散布する。(少ないと効果が薄れる)

薬 剤 名	施用時期	施用量	対象病害虫
デジタルパワー箱粒剤	移植3日前~当日	1箱当たり50g	いもち病、ウンカ類、イネツトムシ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ

注) 無人ヘリ防除を希望される方は、箱施薬を必ず施用して下さい。縞葉枯病の発生が多い場合は、デジタルパワー箱粒剤を施用する。

施肥基準（10a当たり）

項目	基 肥			穂 肥		一発施肥	
	全層施肥	側条施肥		追肥化成34号 (16-4-14) 又はBBNK606 (16-0-16)	出穂前日数 (幼穂長)	全層施肥	側条施肥
品種	ベスト444 (14-14-14)	熾加安242 (12-14-12)	ベスト444 (14-14-14)			エムコート2000 (20-10-10)	
夢 つ く し	30kg	30kg	25kg	15kg	18~15日 (5mm~10mm)	40kg	35kg
元 気 つ く し	35kg	35kg	30kg	20kg	18~15日 (5mm~10mm)	40kg	35kg
ヒノヒカリ	40kg	40kg	35kg	20kg	20~18日 (2mm~5mm)	45kg	40kg
ヒヨクモチ	50kg	45kg	40kg	1回目20kg	2回目10kg	44型(22-12-10) 50kg	44型(22-12-10) 45kg

- 注) ①地力の低い田では1割程度増肥する。
②大豆跡では、基肥を50%減肥し、一発肥料は使わない。
③レンゲ跡では、レンゲの生育に応じて基肥を減肥し、一発肥料は使わない。

除草剤使用基準（10a当たり）

粒 剤		フロアブル剤		投込み剤	
ガンガン1キロ粒剤 移植時~30日以内 ノビエ3葉期まで	1キロ	クサトリーBSXフロアブルL 移植直後~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	500ml	クサトリーBSXジャンボL 移植後1日~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	1袋 (10個)
ウィナー1キロ粒剤51 移植時~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	1キロ	ポデーガードフロアブル 移植後5日~30日以内 ノビエ3葉期まで	500ml	ポデーガードジャンボ 移植後5日~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	1袋 (10個)
サラブレッドKAI1キロ粒剤 移植時~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	1キロ	サラブレッドKAIフロアブル 移植直後~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	500ml	サラブレッドKAIジャンボ 移植直後~30日以内 ノビエ2.5葉期まで	1袋 (10個)

上記除草剤を散布後、雑草が残った場合、下記除草剤を使用する。

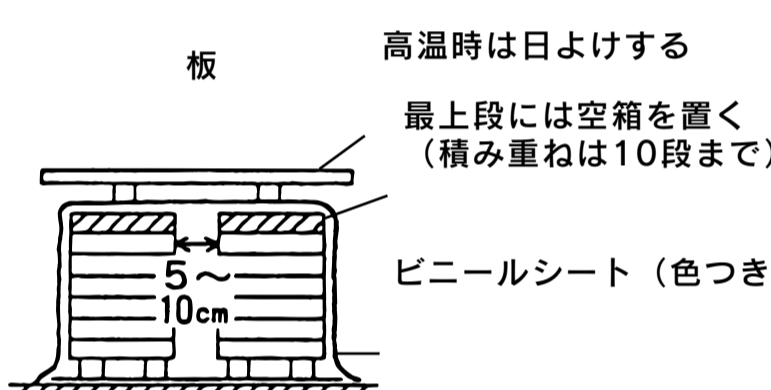
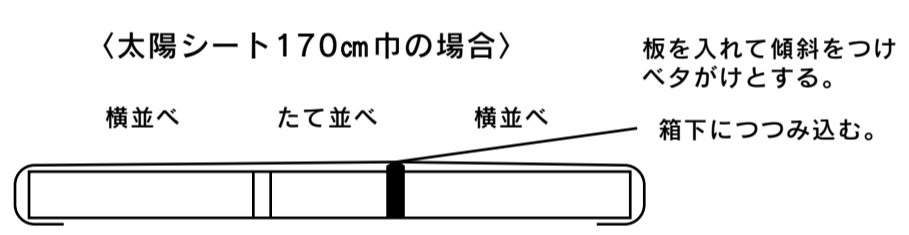
ヒエのみが多い		ヒエと広葉が多い		広葉のみが多い	
●クリンチャー1キロ粒剤 (移植後7日~ノビエ4.0葉期まで 湛水散布)	1kg	●カービー1キロ粒剤 (移植後15~30日以内、ノビエ3.0葉期まで 湛水散布)	1kg	●バサグラン粒剤 3~4kg (移植後15~55日以内)但し収穫60日前まで	
●クリンチャーEW (移植後20日~ノビエ6.0葉期まで 落水散布)	100ml	●クリンチャーバスME液剤 (移植後15日~ノビエ5.0葉期まで 落水散布)	1000ml	●バサグラン液剤 500~700ml (移植後15~55日以内)但し収穫50日前まで	

除草剤使用上の注意点

- ①同一除草剤の連年使用は抵抗性雑草の発生原因となるので、3~4年で剤を切替える。
②極端な浅植え及び植付不良で根が田面に露出している水田では薬害が出やすいので、注意する。
③田面が露出しないよう湛水し(5cm程度)、散布後7日間は落水やかけ流しはしない。
④フロアブル剤やジャンボ剤を使う場合、水の深さを5cm程度とする。
⑤液剤やEW剤を使う場合は、水70~100lに希釈する。

農薬散布時には使用基準を遵守し、周辺作物への飛散にも注意しましょう！！

育苗ごよみ

主な作業	作業内容と注意点											
資材の準備 10a当り	◎10a当り苗18~20箱 1箱当り催芽もみ160gを準備する ○培土を4袋準備する 床土3袋+かけ土1袋=20箱分 ○種もみを3~3.5kg準備する 種子更新100% ○種子消毒 3~3.5kgの種もみに対し 水5ℓ テクリードCフロアブル25ml スミチオン乳剤5ml ※いもち病が多い場合はベンレート水和剤5g											
種子消毒 30a当り	《30a分の準備例》 ①水15ℓにテクリードCフロアブル75ml(よく振る)とスミチオン乳剤15ml(量を正確に)をよく溶かし、薬液を作る ・テクリードCフロアブル(200倍)+スミチオン乳剤(1000倍) ・種もみと薬液の容量比は1:1以上(種もみ10kgに薬液15ℓ以上) ・ベンレート水和剤を混用する場合は15g(1000倍) ②種もみ10kg程度を消毒袋へ5kg程度ずつ入れる(2袋準備) ③薬液に24時間浸す ・消毒袋をよくゆすり内部の気泡を除く ④種子消毒後は水洗いせずに浸種に移る											
浸種 (6~7日)	○水かえは毎日行い、河川・ため池での浸種はしない ○浸種の間(6~7日)に積算水温が100℃になるようにする ○必ず芽出し(催芽)蒔きを行う〔正しいハト胸状態下図参照〕 ○水温10℃以下では、浸種を行わない											
は種	○種もみは、は種ムラにならないように水切りする ○は種直前、又は、は種時にダコレート水和剤500倍液を1箱当り500mlかける ○覆土後、かん水は原則としてしないが、覆土に水分がしみ上がってこない場合はその部分のみかん水する											
出芽	< 積重ね出芽 >  <p>出芽適温は28~30℃ ○1cm程度芽が伸びたら箱を広げ緑化作業を行う(積重ね3~4日後) ○十分にかん水し、種もみが見える場合は、再覆土する</p>	< 太陽シート使用例 > ①箱下は、排水を確保し、なるべくすき間をあけない ②必ず水平に箱を置く ③太陽シートをかけた後、取り除くまでにすきま風が入ると覆土が乾燥し、出芽遅れや、根上りの原因となる ④苗長4~5cmで太陽シートを取り除き、硬化作業に移る(目安は、元気つくし5~7日後、その他6~8日後) ⑤太陽シートは3年で更新 <太陽シート170cm巾の場合>  <p>○出芽後の病害虫防除</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病害虫名</th> <th>薬剤名</th> <th>使用量</th> <th>使用時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苗立枯病</td> <td>タチガレエース液剤 500~1000倍</td> <td>1箱当り 500ml</td> <td>は種時 又は 発芽後</td> <td>1回のみ</td> </tr> </tbody> </table>	病害虫名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	苗立枯病	タチガレエース液剤 500~1000倍	1箱当り 500ml	は種時 又は 発芽後	1回のみ
病害虫名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数								
苗立枯病	タチガレエース液剤 500~1000倍	1箱当り 500ml	は種時 又は 発芽後	1回のみ								
緑化	○寒冷紗2枚では2~4日、寒冷紗1枚では4~6日程度行う ○緑化が済んだら寒冷紗は速やかに取り除く											
硬化	○かん水は1日1~2回程度、土の乾きに合せて行う ○夕方のかん水は徒長しやすく、根の生育が悪くなるので行わない ○風の強い日は苗が傷みやすいので、かん水を十分に行う											

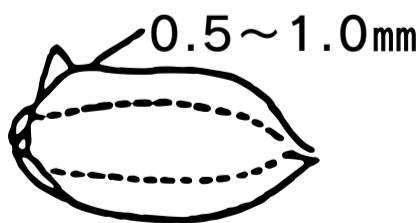
うまい米づくりは種子更新と土づくりから!!

うまい米、選ばれる米づくりは、まず健苗育成から!

●追肥例 色落ちした場合のみ追肥する

資材名	は種後15日頃まで	田植前日~3日前
育苗用肥料 4・4・4	5~7g/箱	10~13g/箱

正しいハト胸状態



田植	植付本数 3~4本 坪当り60株	植付株数 18株/m ²
----	---------------------	-------------------------

稚苗実物大

